

MBH

マネックス・ビーンズ・ホールディングス株式会社

平成18年3月期 第1四半期業績発表

会社説明会

平成17年7月20日 東証アローズ

この資料に掲載されている事項のうち、過去の実績・事実でないものは、将来の業績に関する見通しが含まれています。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。口頭もしくは書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)当社の顧客獲得や顧客基盤を継続的に維持する能力(2)当社が事業において収益を計上する能力(3)日本国内における株式委託業務に対する需要の変化(4)当社が事業継続するために必要なシステムを維持または拡充する能力(5)当社が主要株主とよい関係を維持できる能力 などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。また、掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等に関し、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、この資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

目次:

. 財務情報および事業の概要

【業績概要】

2005年3月期 第1四半期 vs. 2006年3月期 第1四半期	3
2005年3月期 第4四半期 vs. 2006年3月期 第1四半期	4
四半期別ハイライト	5
純営業収益・販売費及び一般管理費の内訳	6

【比較分析】

個人投資家による株式売買推移（主要リテール証券比較）	7
四半期別ハイライト（主要オンライン証券比較）	8
株式委託ビジネスへ依存度	9
現物取引および信用取引ビジネス	10
旧マネックス顧客と旧日興ビーンズ顧客の取引動向	11
合併効果：収益基盤の拡大とコスト削減による業績改善効果	12

【サービス概要】

引受ビジネス	13
投資信託ビジネス	14
FX(外国為替保証金取引)ビジネス	15
債券ビジネス	16
オルタナティブ投資	17

. 経営モデルと今後の展開

ミッション・ステートメント	19
株式委託ビジネス	20
フルラインサービス	21
フルラインサービスの実現	22
ビジネスモデルの現在と未来	23
多様なチャネルを駆使し、顧客プラットフォームの拡大へ	24
投資教育	25
商品組成力(オリジネーション力) = 差別化の源泉	26
マネックスナイトー特別売買	27
マネックス ラウンジ@銀座 オープン	28
よくある質問	29

- ➡ **・財務情報および事業の概要**
- ・経営モデルと今後の展開

業績概要： 2005年3月期 第1四半期 vs. 2006年3月期 第1四半期

(単位:百万円、%)

	2005年3月期 第1四半期	2006年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減
営業収益	5,764	6,151	6.7%
純営業収益	5,440	5,774	6.2%
販売費及び一般管理費	2,806	2,781	0.9%
営業利益	2,633	2,993	13.6%
経常利益	2,645	2,998	13.4%
四半期純利益	2,531	1,433	43.4%

(2004年4月～6月)

(2005年4月～6月)

(単位:百万円、%)

	2005年3月期 第1四半期末	2006年3月期 第1四半期末	対前年同期末比 増減
総資産	192,503	240,523	24.9%
純資産	25,210	29,420	16.7%
自己資本規制比率	511.3%	451.6%	-
現金・預金	26,756	26,784	0.1%

(2004年6月末)

(2005年6月末)

2005年3月期第2四半期以降の数値はMBH連結、それ以外の数値はマネックス証券と日興ビーンズ証券の単純合算の数値です。
自己資本規制比率は2006年3月期第1四半期はマネックス・ビーンズ証券、それ以外の数値はマネックス証券と日興ビーンズ証券の「控除後自己資本」、「リスク相当額」をそれぞれ単純合算して計算した比率です。(以下全てのページ同様)

業績概要： 2005年3月期 第4四半期 vs. 2006年3月期 第1四半期

(単位:百万円、%)

	2005年3月期 第4四半期	2006年3月期 第1四半期	対前四半期比 増減
営業収益	6,533	6,151	5.8%
純営業収益	6,340	5,774	8.9%
販売費及び一般管理費	3,004	2,781	7.4%
営業利益	3,336	2,993	10.3%
経常利益	3,322	2,998	9.7%
四半期純利益	1,784	1,433	19.7%

(2005年1月～3月)

(2005年4月～6月)

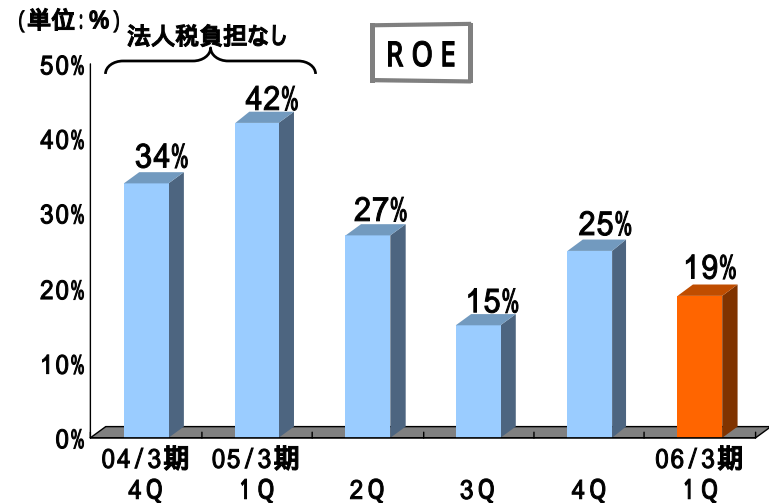
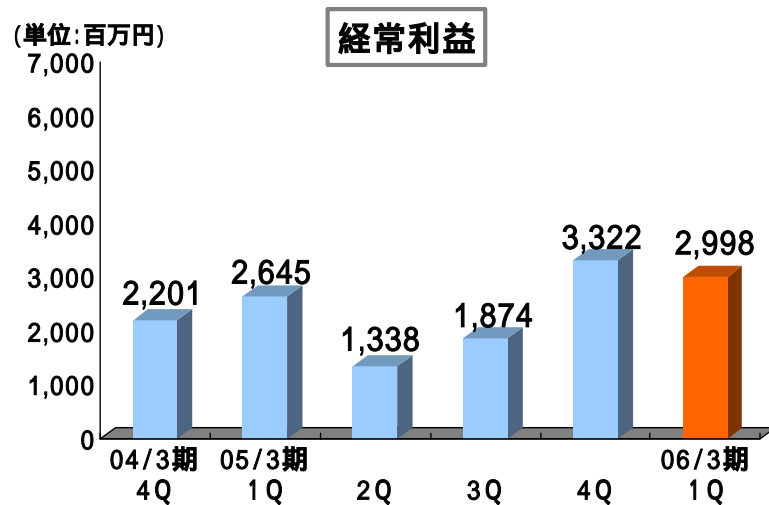
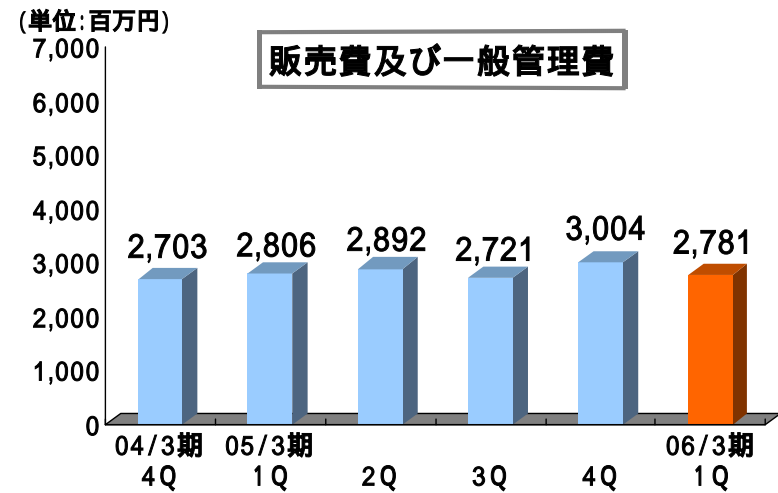
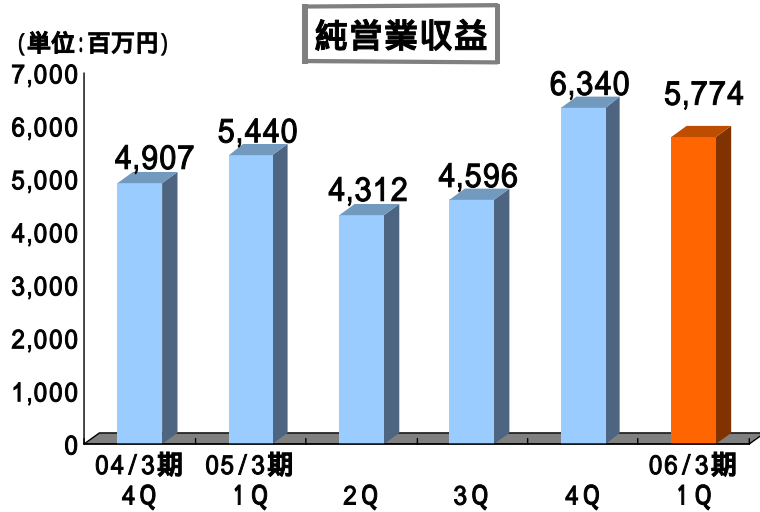
(単位:百万円、%)

	2005年3月期 第4四半期末	2006年3月期 第1四半期末	対前四半期末比 増減
総資産	232,091	240,523	3.6%
純資産	29,811	29,420	1.3%
自己資本規制比率	470.6%	451.6%	-
現金・預金	26,004	26,784	3.0%

(2005年3月末)

(2005年6月末)

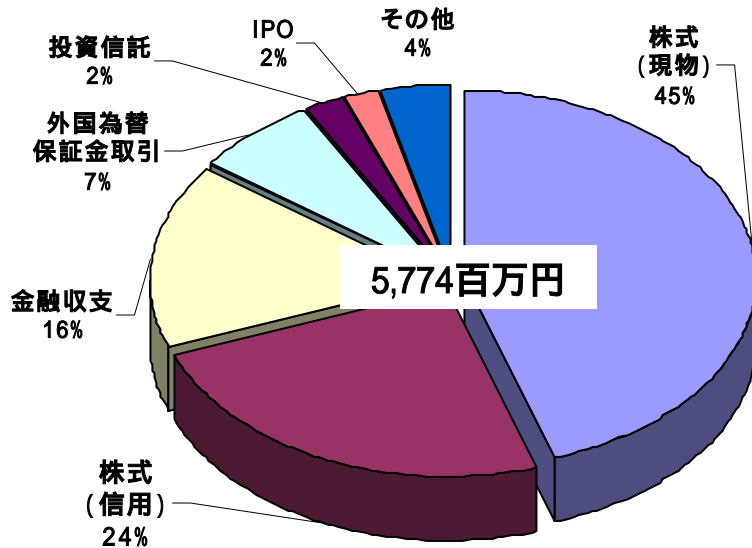
業績概要： 四半期別ハイライト



$$(\text{四半期純利益} \times 4) \div ((\text{各期期首株主資本} + \text{期末株主資本}) / 2)$$

業績概要：純営業収益・販売費及び一般管理費の内訳

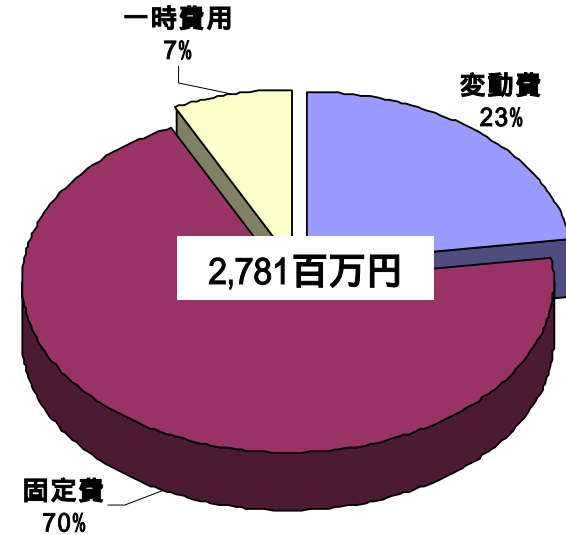
純営業収益の内訳



<コメント>

1. 株式取引・金融収支以外の収益比率が15%を突破
2. 今後は、オルタナティブ投資ビジネスなど新規ビジネスを本格的に展開し、さらに多層化された収益構造を構築

販売費及び一般管理費の内訳



<コメント>

1. 証券子会社の合併に起因する費用が発生
2. システム関連費用の削減は第2四半期より一層顕在化
3. コスト管理をさらに徹底し、株式市場の低迷時においても利益を確保できる費用構造を実現

損益分岐点分析

損益分岐：東証一部売買高 約4億株/営業日

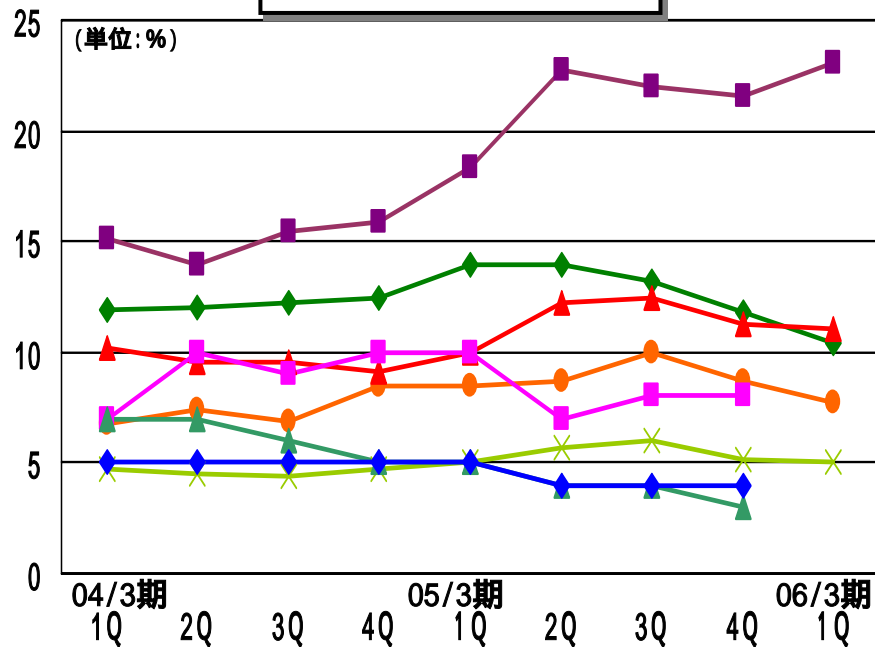
(2006年3月期1Qの実績値をもとに、東証シェアおよび委託手数料以外の収益に変更が無いものとして計算)

(計算式； 東証一部売買高 × (固定費 - 株式以外の手数料) / (株式手数料 + 金融収支 - 変動費)

比較分析： 個人投資家による株式売買推移（主要リテール証券比較）

売買代金シェアと受取手数料実績を比較

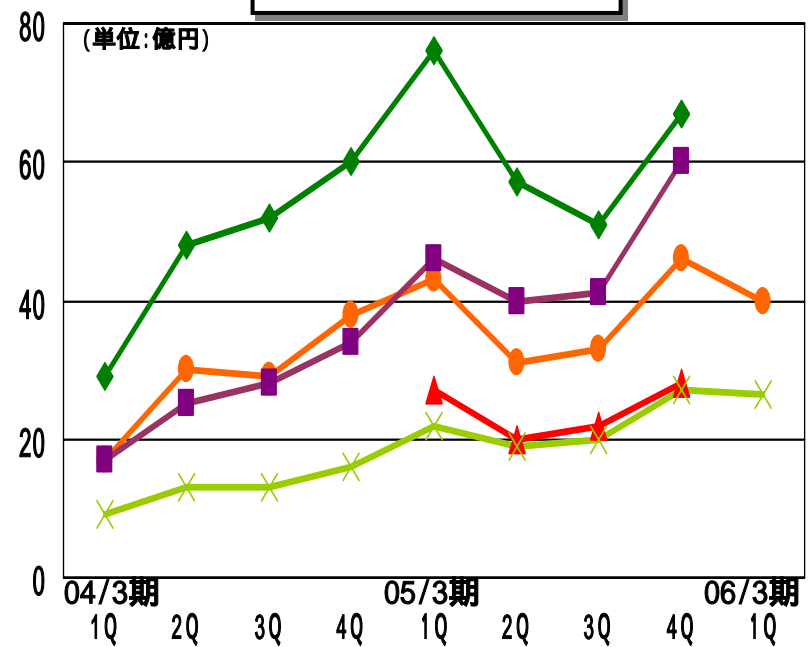
国内委託売買代金シェア



● マネックス・ビーンズ' ◆ 松井 ■ イー・トレード' ▲ 楽天
✕ 加ドットコム ◆ 野村 ▲ 日興コ・デイト ◆ 大和

出所 各社IR資料 注) 株式売買代金シェア: 三市場+JASDAQ

委託手数料

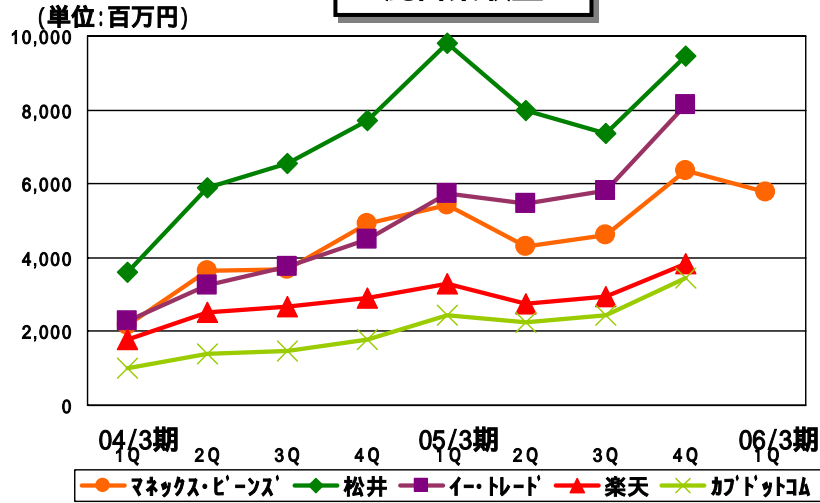


● マネックス・ビーンズ' ◆ 松井 ■ イー・トレード' ▲ 楽天 ✕ 加ドットコム

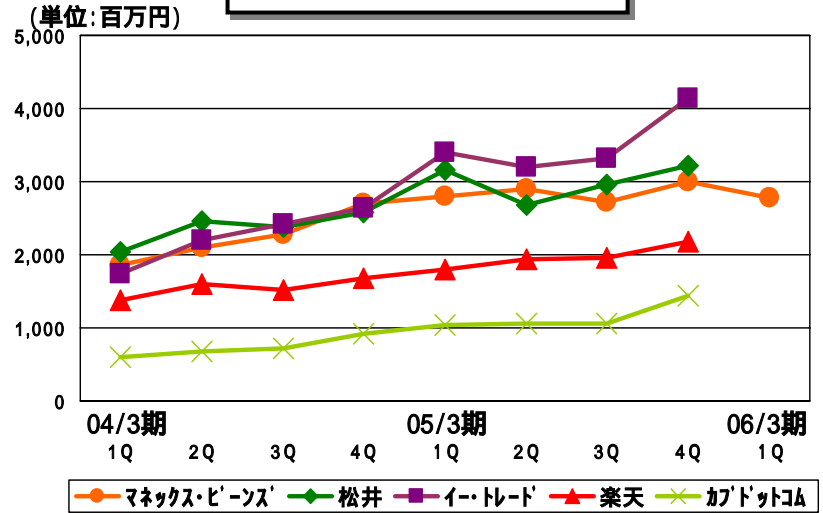
出所 各社IR資料

比較分析： 四半期別ハイライト (主要オンライン証券比較)

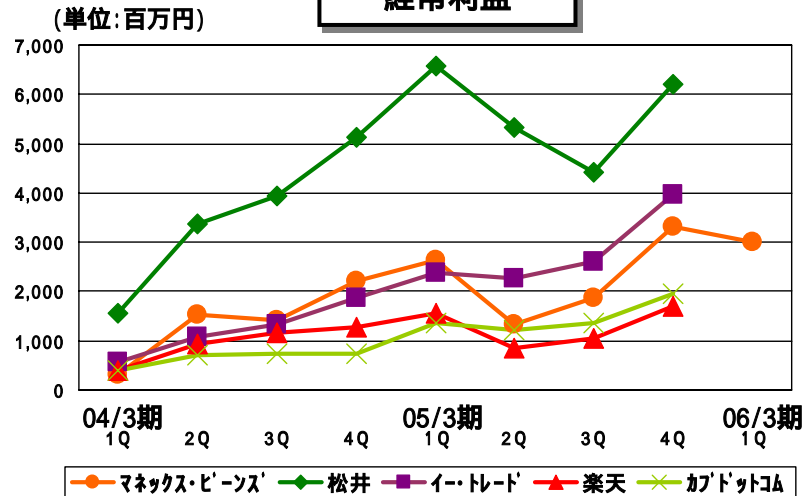
純営業収益



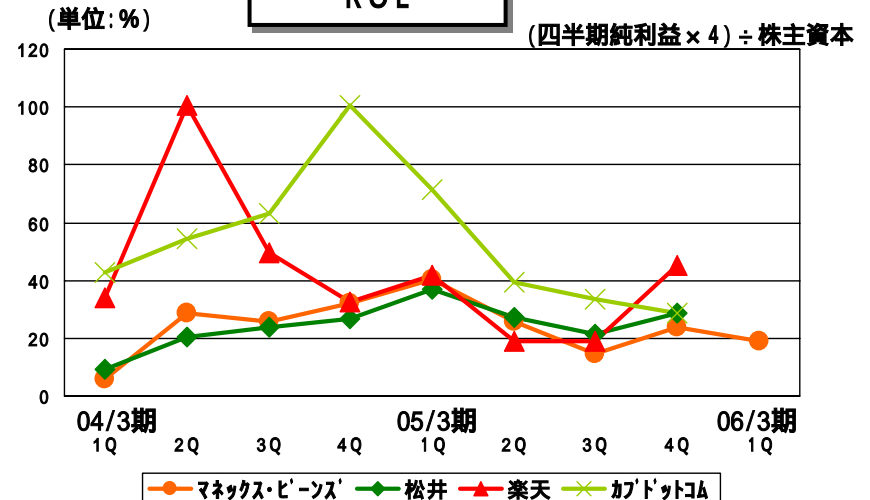
販売費及び一般管理費



経常利益

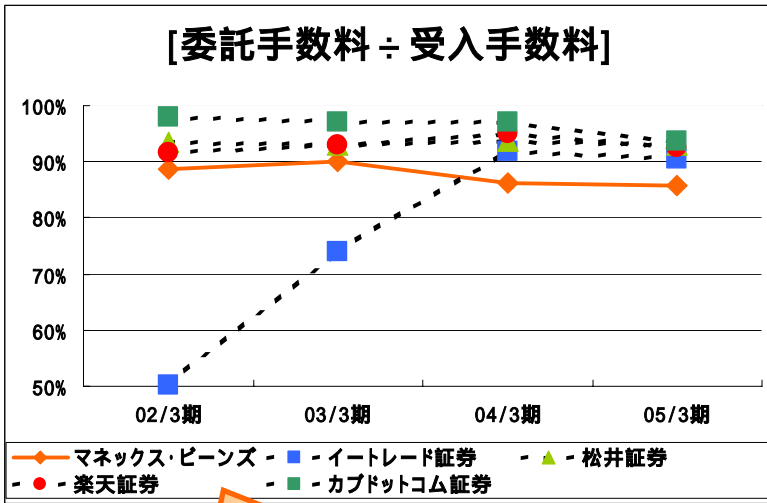


ROE

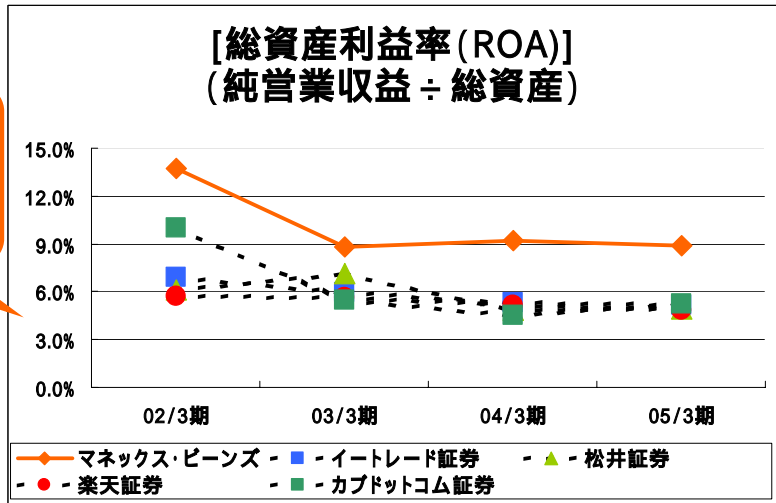


比較分析： 株式委託ビジネスへの依存度

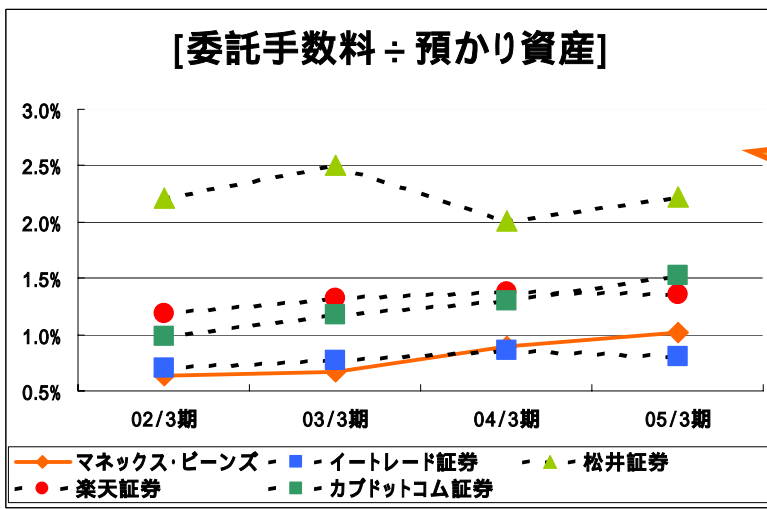
IPO、投信、FX等、商品多様化を進め、株式市場依存度を低減



大手オンライン証券の中で最もROAが高い



大手オンライン証券の中で収益全体に対する株式委託手数料依存度が最も低い
収益の多層化を実現

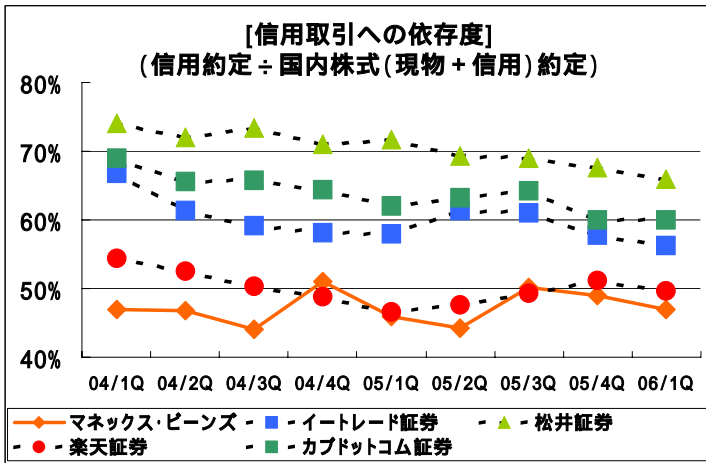


(注) 松井証券 連結ベース
楽天証券、イトレード証券 05/3期から連結ベース
マネックス・ビーンズ証券 05/3期から連結ベース
(それ以前は旧マネックス証券と旧日興ビーンズ証券の単純合算値)

回転売買に依存しない
資産管理型ビジネスを目指す

比較分析： 現物取引および信用取引ビジネス

現物(50%)/信用(50%)：バランスの取れた顧客層による偏りのない収益源



マネックス・ビーンズ
信用取引の依存度
50%程度



主として投資初心者層

< 現物取引 >

上昇相場での収益の
伸びが大きい

潜在取引顧客層の取込
機会の増大

長期投資スタイル
息の長い収益性

【サービスの特徴】

- ・顧客とのコミュニケーション重視
- ・マネックスナイター(夜間取引)、株式ミニ投資(ミニ株)など多彩な商品
- ・充実した投資教育

主としてアクティブ層

< 信用取引 >

ボックス相場でも安定
した収益

売買手数料と金利収益
の両面で収益に貢献

信用取引関連収益の
拡大余地

【サービスの特徴】

- ・競争力のある価格体系、トレーディングツール
- ・適切な与信審査体制
- ・合併で強化された財務基盤

比較分析：旧マネックス顧客と旧日興ビーンズ顧客の取引動向

統合前と統合後の売買動向からは顧客の離散は見られない

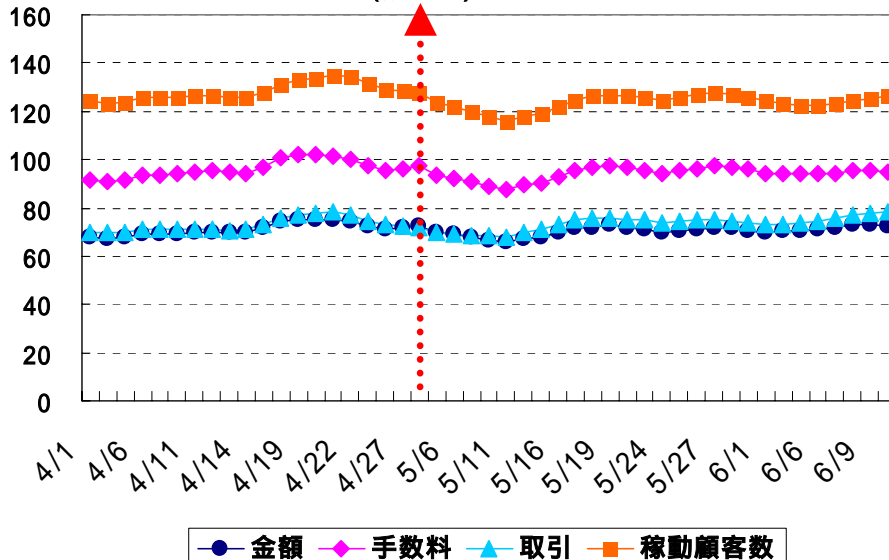
【分析】

5月1日の統合以降も、旧日興ビーンズ顧客と、旧マネックス顧客の売買動向の相関関係は変わらない

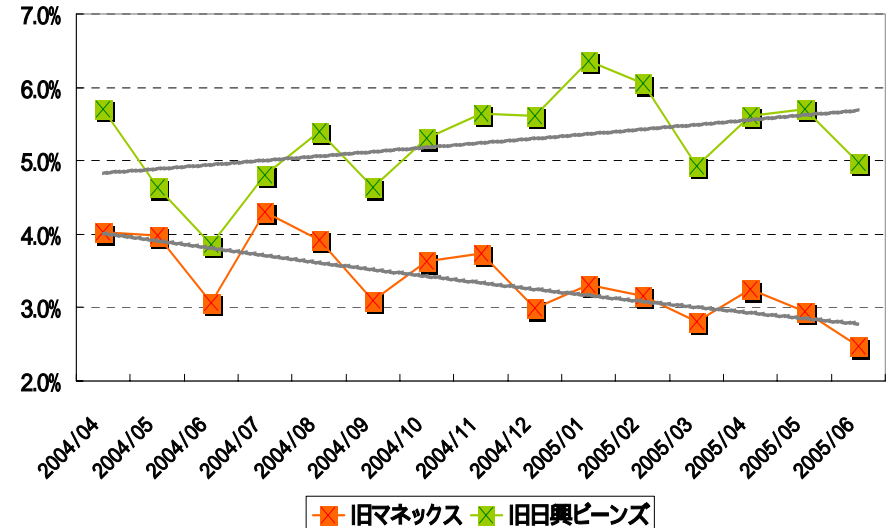
【仮説】

旧マネックスで活発に取引していた顧客は、高稼働顧客にとって有利な手数料体系を持つ旧日興ビーンズに統合前から移っていた

「旧日興ビーンズ顧客 = 100」とした場合の
旧マネックス顧客の売買動向（重複口座等を考慮）
(統合日)



国内委託売買代金シェア

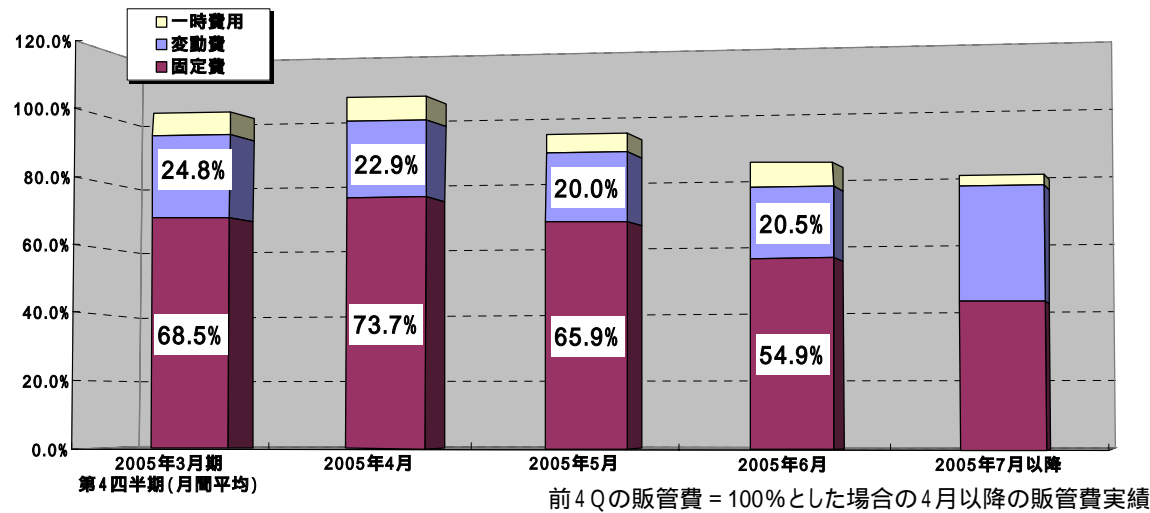


合併効果：収益基盤の拡大とコスト削減による業績改善効果

フルラインサービスによる顧客基盤の拡大

システム関連コストの大幅削減 2Q以降にフルの効果

販管費20%減へ
(2005/3期4Q比)



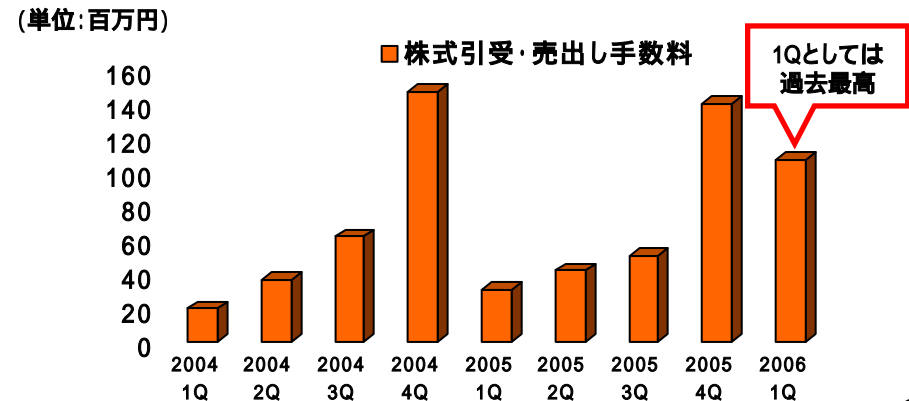
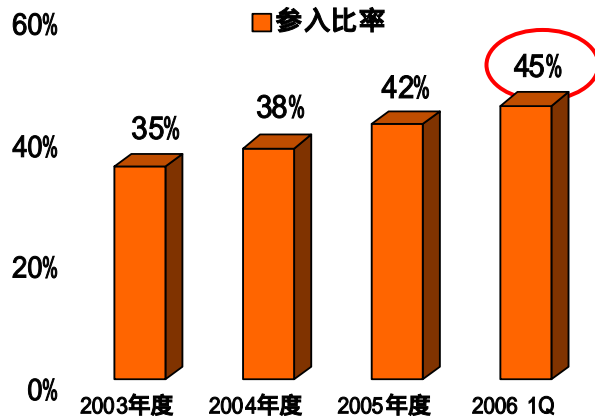
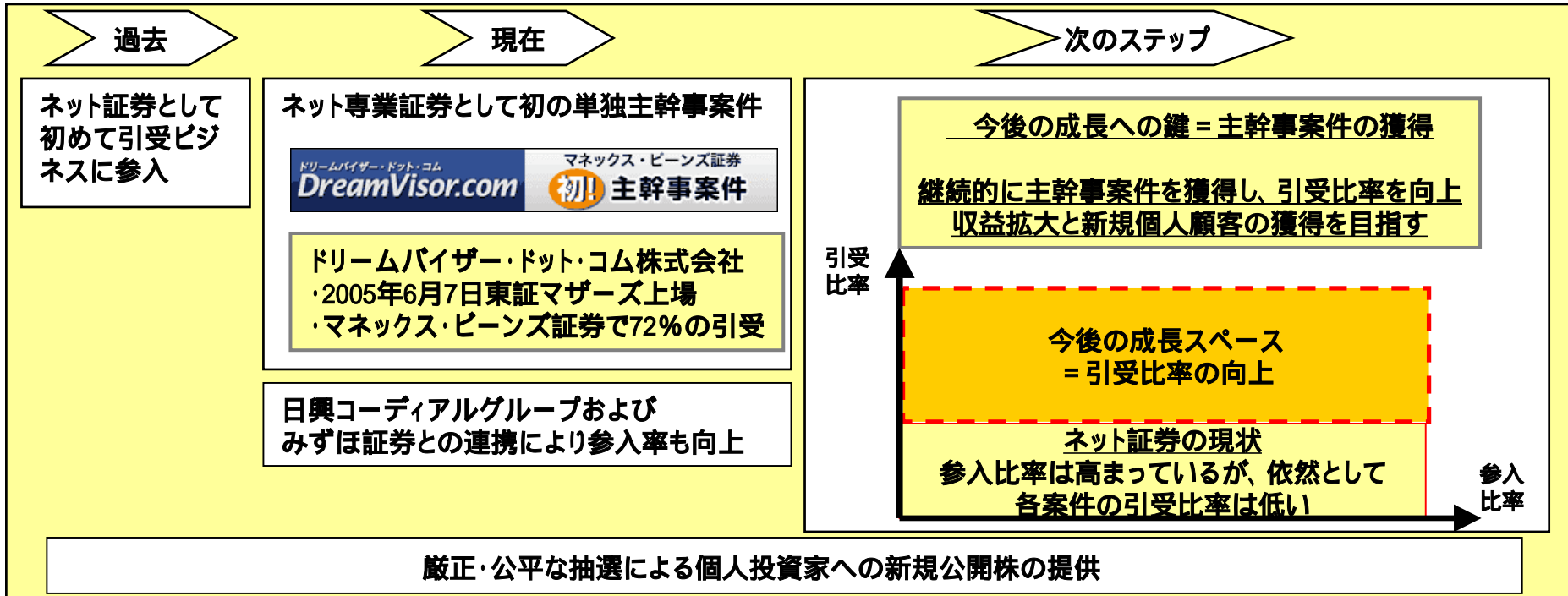
【2005年6月】
前期比約18%減
(一時費用の発生を除く)

【2005年7月以降】
20%以上のコスト
ダウンへ

2006年1Qの一時費用・特別損失

・合併に伴うシステム移行費用 約4.5億円

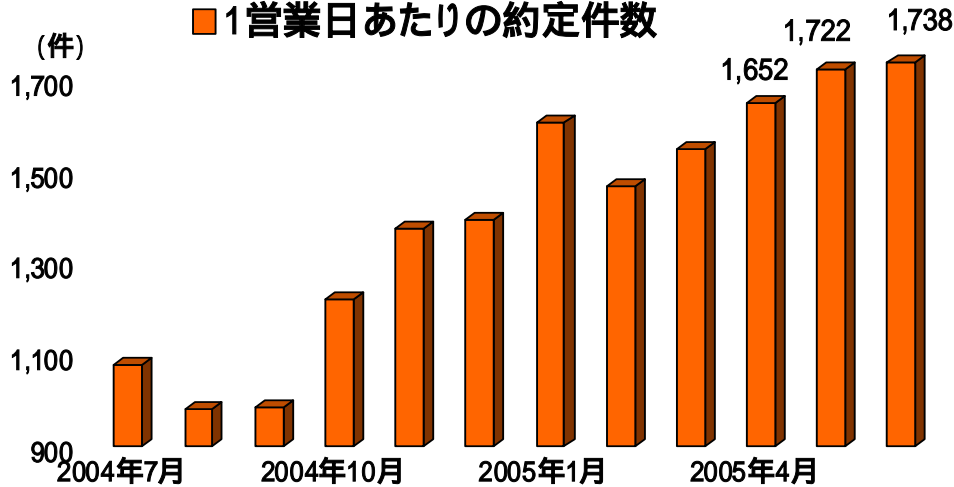
引受ビジネス： 継続的に主幹事案件を獲得し、収益の拡大を目指す



投資信託ビジネス： ネット証券業界のフロントランナー

1営業日あたりの約定件数は3ヶ月連続で過去最高を更新

1営業日あたりの約定件数



成長の源泉：合併による商品ラインナップの充実
「インデックスファンド」から「ブルベアファンド」まで幅広い取扱

信託販売ランキング (2005年6月実績)

- 1位 HSBCインドオープン
- 2位 日経225ノーロードオープン
- 3位 トヨタアセット・バンガード海外株式ファンド
- 4位 HSBCチャイナオープン
- 5位 PNJオープン (店頭・小型株)
- 6位 財産3分法ファンド・毎月分配型
- 7位 リバース・トレンド・オープン
- 8位 DKA物価連動国債ファンド
- 9位 ハイパー・ウェイブ (ブルベアファンド)
- 10位 バンガード・ウェルズリー・インカム・ファンド

注) 国内債券型 (MRF含む)、外貨建てMMFおよびマネーポートフォリオは含めておりません。

成長の源泉：投信積立プログラムの普及・定着

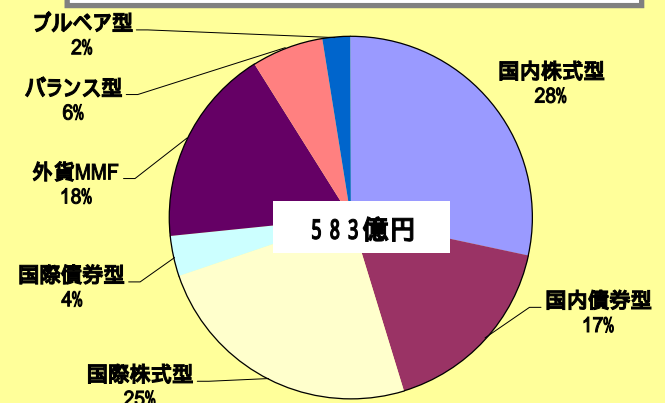
毎月一万円から可能
ボーナス月など増額も可能
お客様のニーズに合わせ、3つの方法をご用意

	2005年6月実績	
自動つみたて	9,364件	186百万円
カードde自動つみたて	7,630件	148百万円
銀行de自動つみたて	2,882件	47百万円
合計	19,876件	381百万円

積立件数は前年同月比較で約20%増加

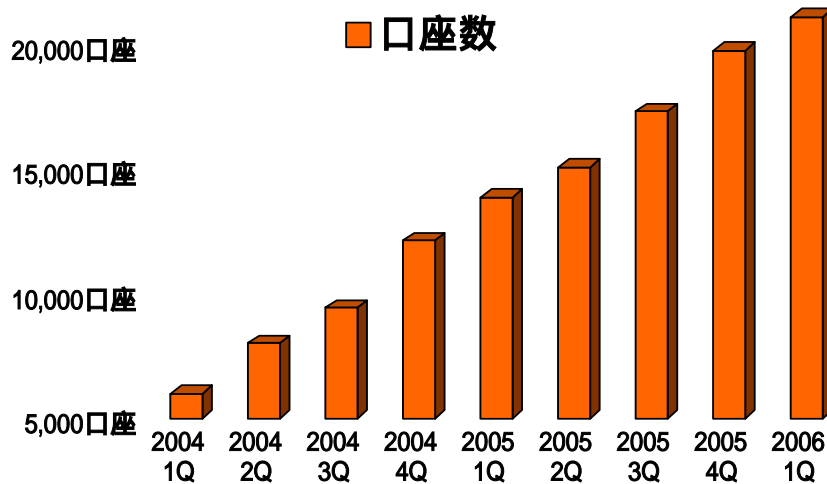
成長の源泉：分散投資に対する理解
お客様の効率的なポートフォリオ組成に貢献

2005年6月末時点 投信残高内訳 (MRF等除く)

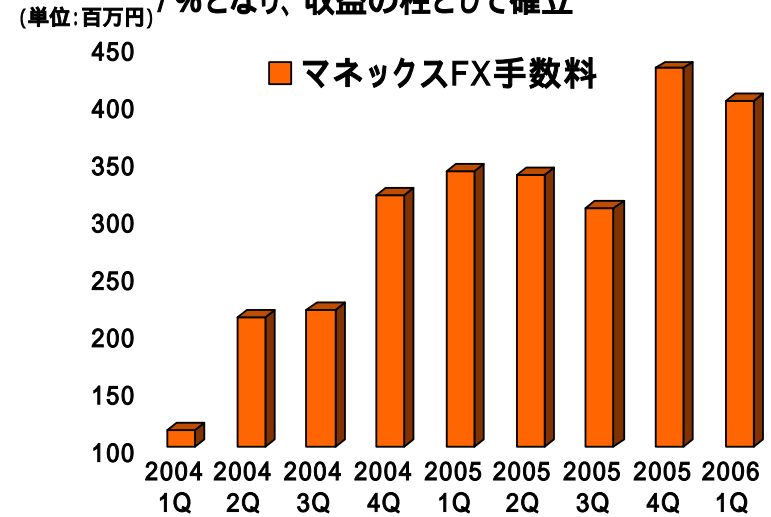


FX(外国為替保証金取引)ビジネス：国内リテール最大級の実績

大手ネット証券を始め、様々な業者が参入するが、優位性を確保



手数料収入も増加し、純営業収益に占める割合は7%となり、収益の柱として確立



マネックス・ビーンズ証券の特徴

顧客層

為替に興味・馴染みのある顧客が多い

商品の差別化

最低取引単位を1,000通貨とし、小口取引が可能
競争力のあるスワップ金利
MRF、預かり金から為替保証金へ簡単に振替可能

お客様サポート体制の充実

電子メール及び電話による問い合わせが可能
経験豊富なスタッフが迅速に対応



法改正への対応

分離保管など改正金融先物取引法
施行への対応は完了

法改正により、不適正な業者は排除され、健全な競争が促進される環境へ

マネックス・ビーンズにとっては追い風であり、更なる発展へ繋がる

債券ビジネス：“貯蓄から投資へ” “円から外貨へ”

日本人の資産形成に変化

< 経済環境の変化 >

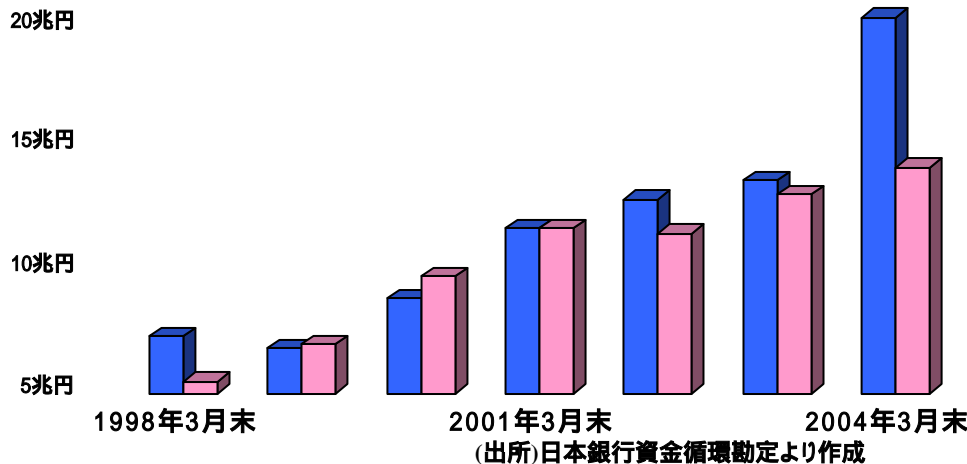
右肩上がりの経済の終焉、財政悪化等

< 国策の転換 >

ペイオフ解禁、公的年金改革等

「貯蓄から投資へ」「円から外貨へ」の流れが加速

■ 個人の国債および財融債投資残高
 ■ 個人の外貨預金および対外証券投資残高



【ネット証券で唯一】

マネックス・ビーンズ
+ 他1社



国内債券および
外債の取扱い

国内債券ビジネス

個人向け国債を第1回発行分から取扱い
 安全資産の受け皿として、順調に拡大
 第10回発行分(2005年4月)販売額は
 約10億円
 女性層に高い人気

セゾンカウンターでも販売
 新規顧客開拓に貢献

外国債券ビジネス

「豪ドル建て世銀債」を中心に募集
 既発債のビジネスも順調
 30代のお客様が中心

オルタナティブ投資：「いいものだけを世界から」

パイロットファンドに続き本格的戦略商品「アジア フォーカス」を投入

- ・アジア特化のオルタナティブファンド、いよいよ待望の商品化
- ・機関投資家、一般富裕層のみアクセス可能だった商品をマネックス・ビーンズ顧客に提供

パイロットファンド

マネックス
ファンド・オブ・
ファンズI

匿名組合契約
2004年11月設定
(100万円から購入可能)

本格的商品第一弾

アジア ファンド・
オブ・ファンズ
連動型投信
(愛称:アジア
フォーカス)

国内公募投資信託
2005年7月販売開始
(50万円から購入可能)

アジア フォーカスの特長

- ・リスクをコントロールしながら絶対リターンを追求
- ・20~30のヘッジファンドに投資するファンド・オブ・ファンズ連動型投資信託
- ・投資対象を日本、アジア、太平洋地域へフォーカス
- ・第一線のエキスパート(アジアはフルトン、日本はマネックス・オルタナティブ・インベストメンツ)によるファンドマネージャーの厳選

今後展開する個人投資家向け
オルタナティブ投資商品

ヘッジファンド

プライベート
エクイティ

更に個人投資家の為の
マネックス・ビーンズ・グループ
独自商品のリリースを計画

ベンチャー
キャピタル

再生ファンド

MBHグループとして
他社との圧倒的な
差別化商品として位置付け

- ・オルタナティブ投資に対する顧客基盤の確立
- ・2005年3月開催のオルタナティブ・ファンド投資家向け説明会では、約2,000人を動員
- ・マネックス<オルタナティブ>メールにて定期的に情報発信、購読者数約10,000人(2005年6月)
- ・「アジア フォーカス」ファンド説明会に2日間で約1,200名参加

・ 財務情報および事業の概要



・ **経営モデルと今後の展開**

ミッション・ステートメント

- ◆ **オンライン・トレーディングを提供するのではなく、オンラインによる個人向け総合金融サービスを提供する。**
- ◆ **株式だけでなく、幅広い金融商品・サービスを提供する。**
- ◆ **能動的に売買判断をしない層へもサービスを提供する。**
- ◆ **自ら商品組成 (Origination) できる体制を強化する。**
- ◆ **預かり資産当たりコストを更に低減させ、資産管理型ビジネスモデルを完成させる。**
- ◆ **持株会社により、金融機関の業際の変化にダイナミックに対応。**
- ◆ **投資教育・啓発活動を更に強化していく。**

株式委託ビジネス：顧客基盤の拡大と収益の安定成長を両立

証券子会社の合併により、「手数料」「取引機能」「独自性」「顧客サポート」などあらゆる面で最良のサービスを提供

手数料

ボリュームディスカウント
アクティブトレーダーを対象とした手数料の割引

**上位顧客の手数料率は
平均0.04%～0.05%程度**

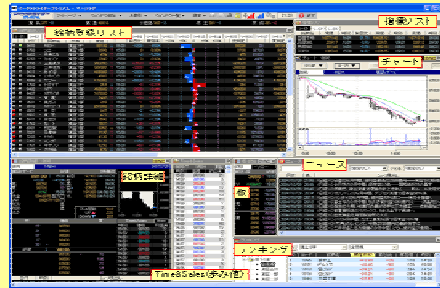
他社と比較し、最も競争力のある手数料体系を実現

ボリュームディスカウント実施以後、信用取引残高が急激に伸びている

取引機能

マーケットライダー
プレミアム

1000銘柄まで登録
情報画面からのダイレクト注文



逆指値など多彩な注文方法

12パターンの注文方法が可能

独自性

マネックスナイター
(夜間取引)

国内唯一の個人向け私設取引システム
2001年1月のサービス提供開始以来安定稼働

無期限信用取引

優れた資金調達力を活用し、投資家の取引機会を拡大

株式ミニ投資(ミニ株)

通常の1/10単位で取引可能
小口投資家をサポート

顧客サポート

コールセンター、
電子メールによる対応

今後の初心者層の拡大に備え、コールセンターの機能強化を検討

Web画面の継続的改善

お客様の声に真摯に耳を傾け、より使いやすい画面に改善

個人投資家にとって最高のプラットフォームを提供し、口座数、預り資産ともネット証券で首位の座奪還を目指す

フルラインサービス

商品・機能・投資情報、そして業界を先駆けるサービス

充実したラインアップ



「日経ビジネスアソシエ臨時増刊」 2005ネット証券ランキング			Gomez オンライン証券ランキング(2005年6月)	
第2位	第1位	第1位	第2位	第1位
総合	「機能部門」	「情報部門」	総合	「サービスのきめこまかさ」

先駆け

マネックス(セゾン)カード 商品先物取引(ビーンズCX)
 貸株サービス 特典付きショッピングサイト「ビーンズdeオトク」
 株主向け優遇サービス オルタナティブ投資 マネックスナイター(夜間取引)

投資情報

自動更新株価情報(マーケットボードプロ)

- ・複数銘柄の登録可能
- ・上下5本ずつの気配値も自動更新
- ・板注文機能付き

銘柄スクリーニング

市況・ニュース
メールマガジン
チャート

多機能情報ツール(マーケットライダープレミアム)

自動売買連携

- ・複数銘柄の登録
- ・ニュースやチャートなど豊富な情報が自動更新
- ・注文、約定画面の表示

機能

権利入札取引
約定通知メール・アラートメール
期間指定注文(30日先まで)
郵便局、アイワイバンク銀行のATMで入出金
信用取引シミュレーター
多彩な注文方法

- ・逆指値
- ・ツイン指値
- ・サーフィントレード
- ・連続注文
- ・リバース注文

商品

中国株
株式ミニ投資(ミニ株)
マネックスFX(外国為替保証金取引)
ビーンズCX(商品先物取引)
先物・オプション
個人向け国債・外国債券
カバードワラント
厳選したセレクト投資信託
損害・生命保険

フルラインサービスの実現： 全てのお客様の満足の為に

(2005年6月30日現在)

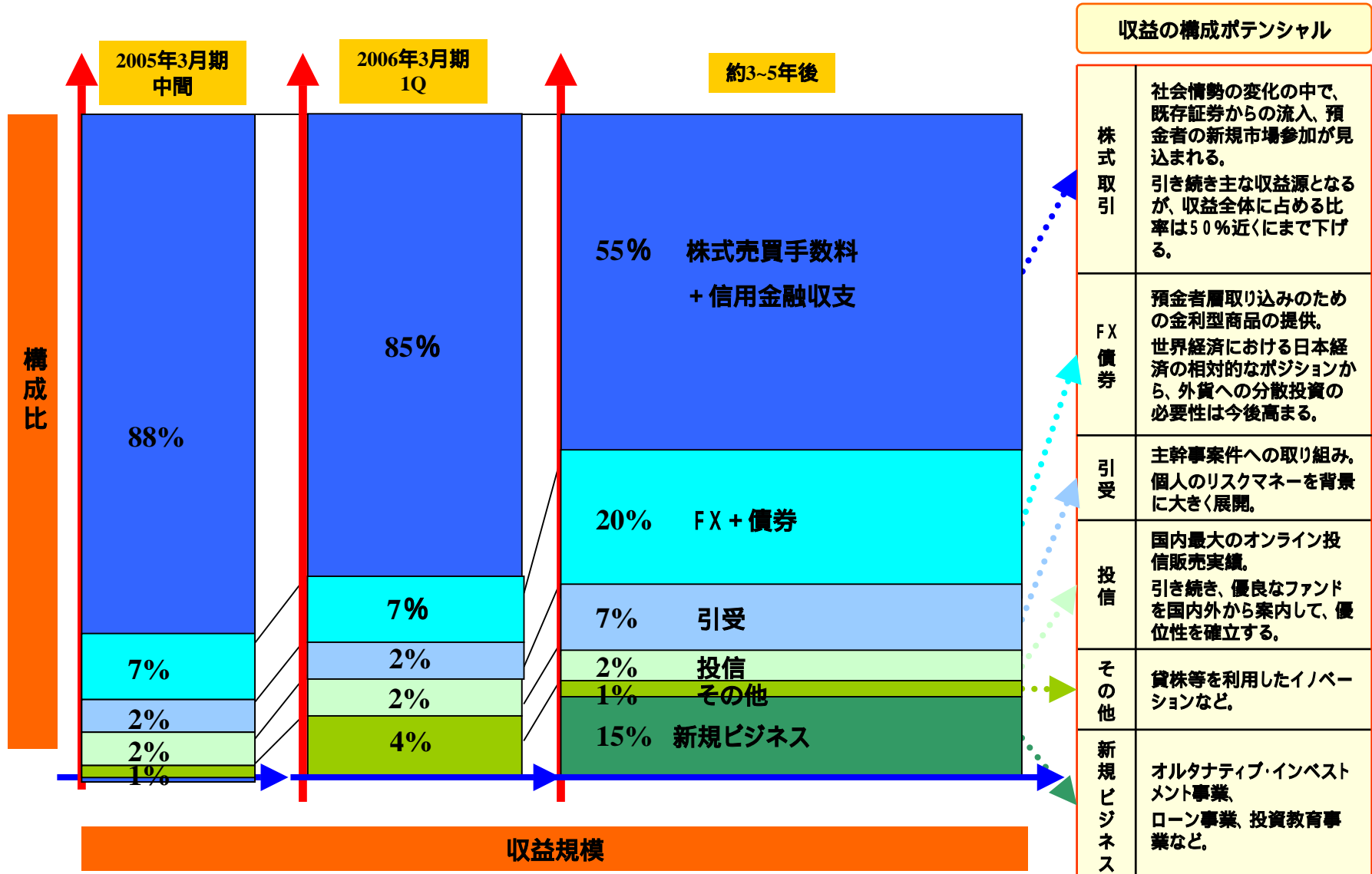
	株式関連						貸株サービス		債券	投資信託		代替投資		その他			
	一般信用	逆指値	中国株式	米国株式	夜間取引PTS	ミニ株・単元未満株	金利付与	配当金相当額自動受取	個人向け国債・海外債券	積立プログラム	中国株投信 インド株投信	非分散投資型	分散投資型	商品先物	為替保証金取引	ATM入出金	カード代金証券口座引落し
マネックス・ビーンズ				×													
イー・トレード		×			×		×	×		×			×			(注)	×
松井		×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×
楽天					×	×	×	×	×	×			×	×		×	×
カブドットコム			×	×	×		×	×	×			×	×	×	×	×	×

出所：各社IR資料等

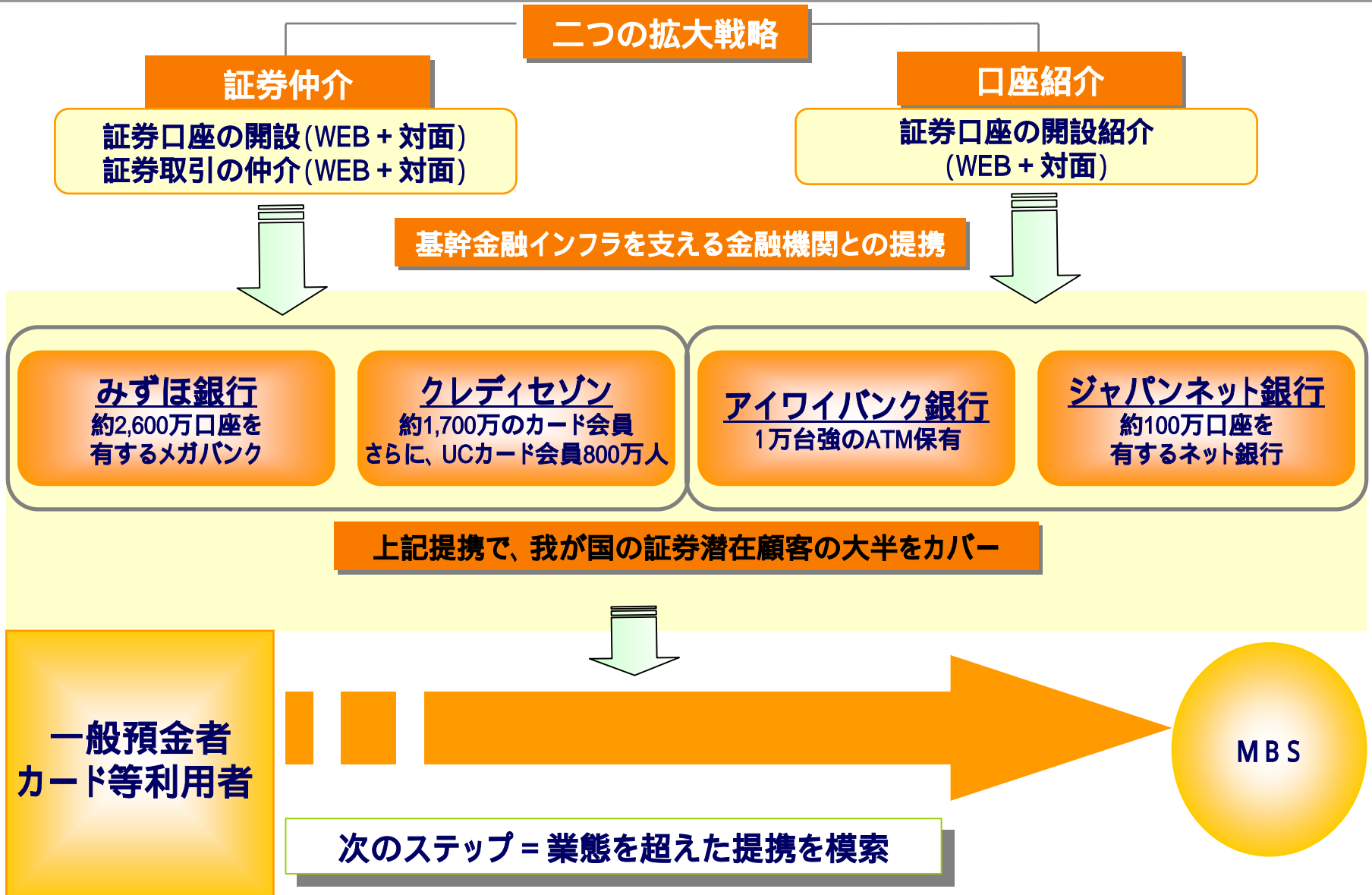
：マネックス・ビーンズ証券のみ提供中 ○：提供中 ×：提供無し

(注) 2005年7月サービス提供開始

ビジネスモデルの現在と未来： 収益ポテンシャルの厚みを増し更に拡大



多様なチャネルを駆使し、顧客プラットフォームの拡大へ



投資教育:お客様の投資リテラシーの向上に貢献

“国策の転換に背を押され、
資産運用においても個人の力
が問われる時代に”

+

マネックス・ビーンズ
充実した投資教育を
不断に提供

お客様の資産形成に貢献
長期的な関係を構築

【メールマガジン】

マネックスメール

- ・購読者が30万人を超え、金融機関が発行するメールマガジンとしてはトップクラスの購読者数
- ・豊富な内容(市況概況、企業情報、資産設計講座、チャート分析、コラム等)

マーケット朝一番!

- ・投資に欠かせない情報を毎営業日の朝にお届け
- ・携帯電話での受信も可能

マネックス<オルタナティブ>

メール

MBHが注力するオルタナティブ投資について、その投資手法をわかりやすく提供

【オフライン】

大規模セミナー

- ・「オルタナティブ・ファンド投資家向け説明会」(2005年3月)勉強会
- ・昨年度実施回数89回
総参加者数11,000人超
- ・東証、大証などとの共同開催も実施

【DVD・書籍販売】

DVD;累計 約7,000枚販売

書籍;「内藤忍の資産設計塾」他



デイトレーダー層

能動的投資家層

預貯金者層

商品組成力(オリジネーション力) = 差別化の源泉

ネット証券事情

- ネット専門証券間でのさらなる競争激化
(一部で見られる手数料値下げ競争)
- ネット証券業界の活況による他業態の参入活性化
(大手証券のネット本格参入、銀行・IT業界(ヤフーなど)による証券仲介本格参入など)

独自の商品・サービス組成(オリジネーション)が最大の決め手

今後のMBHの注力分野

1. 新規公開株

- 投資銀行部門の更なる強化による主幹事案件を継続的に獲得(2005年7月)
- 提携等による仕入れチャンネルを多様化

2. オルタナティブ投資

- 「アジア フォーカス」販売開始 (2005年7月)
- ・ 投資対象を日本とアジアに特化した初めてのファンド
- ・ 第一線のエキスパートが、優良ファンドを選択
- 継続的な新ファンドの開発

3. 金利・為替リスク型商品

- 外貨建て債券の多様な商品取り揃え
- 年金代替商品など超長期の投資を前提とした新商品の開発を検討

4. その他

- 利用者に手軽な証券担保ローンの開発を検討
- 初の対面スペース(マネックス ラウンジ@銀座)を開設し、投資家の要望の吸収に努める

マネックスナイター特別売買

我が国唯一の個人向け私設取引システム(PTS)

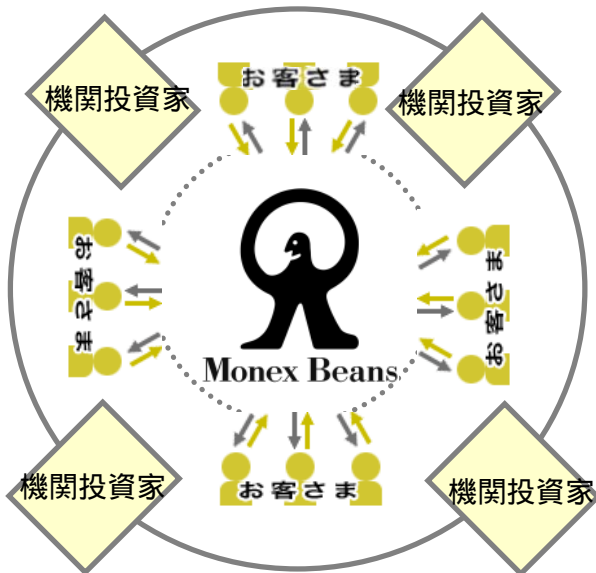
2005年8月上旬
サービス開始予定

【現行】マネックスナイター

- ・取引価格: 取引所当日の終値一本のみ
- ・市場参加者: マネックス・ビーンズ証券顧客
取次証券会社(丸三証券)の顧客

【新】マネックスナイターZ(仮称)

- ・取引価格: 取引所当日の終値等、および一部銘柄について特別売買価格
- ・市場参加者: 新たに適格機関投資家(*)の参加



【特別売買とは】

特定の銘柄について適格機関投資家(証券会社など)に売買ニーズがある場合、取引所終値等の上下7%の範囲内でマネックス・ビーンズが価格を決定。適格機関投資家に売却ニーズがある場合は、当該投資家から取引所当日終値よりも安い価格で売却注文を受付け、購入ニーズがある場合は逆に価格は終値等よりも高くなる。適格機関投資家からはナイター開始時に注文を受付け、ナイター終了時刻までキャンセルは受付けない。いずれストップ高・安が続いた銘柄の取引価格を、より実勢に近い価格に寄せることにも対応する予定。

個人投資家の投資機会拡大

取引機会の増加により
マネックスナイターの流動性増大を期待

*当初は、ゴールドマン・サックス証券会社がこの特別売買の実施に協力し、「マネックスナイター」における特別売買の活性化に貢献していただける予定です。

マネックス ラウンジ@銀座 オープン

マネックス ラウンジ@銀座
銀座ソニービル4Fに2005年7月22日 OPEN！！



ネット証券初の試み

新規口座開設の受付

当社商品・サービスの説明

投資教育に関する情報提供

“マネックス・インベストメント・ライブラリー”の展開

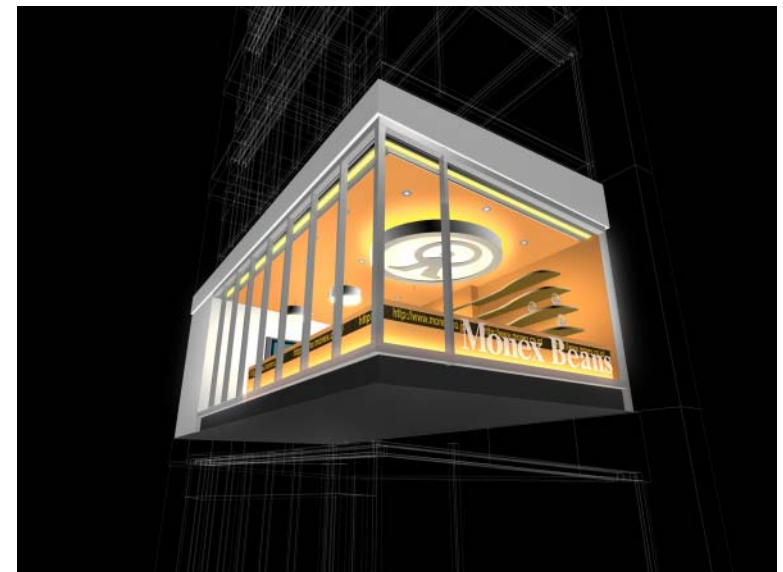
人気講師によるミニセミナー等随時開催

その他個別の企画イベントの実施

日本一の高消費タウン、銀座

銀座の中心から“情報”と“ブランド”の発信

新しい顧客層へのアプローチとニーズの吸い上げ
を可能とするコミュニケーションスペース



よくある質問

- ✓ 新規口座獲得について
- ✓ 他社との差別化について
- ✓ 大手オフライン証券のネット取引本格参入について
- ✓ 銀行の証券ビジネス参入について
- ✓ システムリスクについて
- ✓ 株主還元について

MBH

Monex Beans Holdings, Inc.

未来の話をしよう。